

## タジキスタンってどんな国？

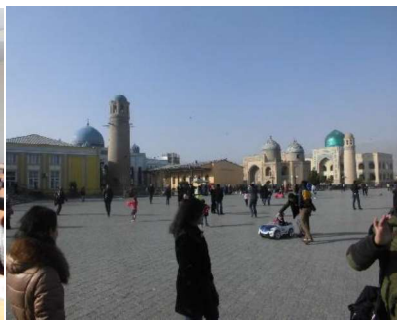
村松芳明



ここがタジキスタン



国立言語大学の授業風景



イスラム教スンニ派のモスク

### \*中央アジアの小国、タジキスタン

タジキスタンは人口が約 850 万人、面積は日本の 40% の中央アジアの国です。国土の 93% が山で、東部には有名なパミール高原が広がっています。

1924 年から 1991 年までソビエト連邦に属していたため、他の中央アジアの国々同様ロシアの文化とイスラムの文化が混ざった独特の文化を持っています。

タジキスタンは中央アジア 5 か国の中では最も貧しい国で、アルミニウムと綿花の生産そしてロシアや中国などへの出稼ぎが主な収入源です。

約 25 年前までは内戦が続いていたため、主要都市と地方都市を結ぶ幹線道路などインフラ整備も遅れていましたが、最近では都市部を中心に発展は目覚ましいものがありロシアのみならず中国製品が大量に出回り、我々日本人が日常生活の中で使っているものは殆ど手に入ります。そして、農産物も野菜や果物や豚肉を除く肉製品も安価で購入できるため、生活には何の不自由も感じませんでした。

### \*そこで私は何をしてきたのか

2014 年から 2017 年まで、私は首都のドゥシャンベで JICA シニア海外ボランティアとして日本語を教える活動をしました。

タジキスタン国立大学とロシア・タジク・スラビアンスキー大学、そして国立図書館で日本語の指導と日本文化の紹介をしました。学習者は全部で 300 名ほどです。

教科書は「みんなの日本語」をベースにしましたが、言語大学以外ではゼロ初級者が多かったので、英語やロシア語との対訳を中心にしたプリントを作って教えました。文化紹介は、定番の書道や巻きずし体験を何度か開催したり、アニメの上映会や日本語による弁論大会や日本の歌やダンスのフェスティバルも採り入れたりし、学生や先生方それに大使館や JICA 関係者も一緒になって参加して、大いに盛り上がりました。

タジキスタンに住む在留邦人はわずか 30 名足らずで、日系企業が進出していないため邦人のほとんどが大使館員か JICA の関係者です。

「そんな国で日本語を勉強している人がいるの？」とよく聞かれます。

学習者が日本語を勉強したいと思ったきっかけは、インターネットを通して日本のアニメやドラマを見たり、「Jポップや歌謡曲を聴いたりしたことだそうです。中には、隣国ウズベキスタンのテレビでやっていた「おしん」を見て感動して、日本語を勉強したいと思った学生もいました。「日本語の音が美しいから」そんな学生もいました。

もちろん、彼らのほぼ全員が「日本に行ってみたい」と思って日本語を学んでいます。しかし、日本語を習得しても、国内で日本語を使える企業は無く、また日本で就職するのも難しいため、折角学んだ日本語を生かせる「受け皿」がないのが大きな課題です。

### \*イスラム教の国ってどんな国？

タジキスタンはイスラム教の教えに基づいて国を統治するイスラム国家ではありませんが、国民の80%がイスラム教徒です。殆どの方はスンニ派に属していますが、パミール地方出身の人達はシーア派に属しています。

スンニ派はコーランの教えを厳格に守る人が多く、女性はモスクに入れず、スカーフを巻いている女性が多く、親の勧めに従って早く結婚する若者が多いです。

シーア派の戒律は比較的自由で、男女一緒にモスクでお祈りを行いスカーフは巻かない人がほとんどで、親が教育熱心なため大学卒業後も働いてから結婚する若者が多いです。

イスラムといえば、豚肉を食べませんし、アルコールは禁止だと思っていましたが、ワインやウォッカを飲む人も見られました。30%くらいの方は飲酒を行っています。

そして、断食（ラマダン）が年に一回行われ、夜が明けてから暗くなるまでは飲食が禁止されます。つばを飲むのも禁止です。大体夜の8時ころから明け方の4時ころまでに2回の食事をして少しは眠ります。ラマダンは、女性は9才から、男性は11才から行いますが、病気の人や妊婦、老人は断食の義務はありません。近年では、年齢や性別を問わずに自分で断食をするかしないかを選択するような風潮も見られます。

### \*多様な文化の下で

タジキスタンは一時期ソビエトに支配されていたので、ロシアの文化とタジキスタン独自のイスラム文化が共存しています。教育熱は高く、識字率は99.9%だそうです。

そして、教育関連のインフラも整っています。また、医療もしっかりしていて病院ではCTやMRIを使った検査も受けられます。更に、ロシア正教の影響で、12月中旬から1月中旬まで、大きなクリスマスツリーが主要道路に飾られ、大学内にもクリスマスグッズがたくさん見られます。ロシア正教のクリスマスは1月7日なので1月中旬までツリーが飾られるのです。でも、日本のように商業主義ではないので、街中で派手にお祝いをするということはありません。

一方、イスラム関連の文化は前述の通りですが、タジキスタンの新年は他の中央アジア諸国と同様に3月21日の春分の日です。この新年のお祭りをナウルズと言って

3日間は会社や公共機関それに学校関係は休みになります。どの家庭でも、家族みんなが集まって、誰もが飲んだり食べたり踊ったりして新年を祝います。

ただし、飲むといってもお茶、ジュース、コーラなどですが・・・。

結婚について、大概の結婚式が土曜日と日曜日に行われます。土曜日は、新郎と新婦が別々にそれぞれの家に親戚や友人を招いて食事をふるまい、日曜日に二人が揃ってホテルなどの会場で披露宴を行い、飲んで食べて、最後は全員でタジクダンスを踊って夜遅くまで大いに盛り上がります。

女性は18歳ころから親が勧める男性と結婚させられて、子供を数人産んで家庭を守り、45歳くらいで嫁に家庭の主役を譲り隠居の身になるケースが多いです。そして、一般に親の面倒を見るのは長男ではなく末息子の義務となっています。

また、イスラムの一夫多妻制についてですが、出稼ぎに出ていった夫が帰ってこなくなったり、病気や事故で夫が早死にしたりした場合の救済策として、経済力のある男性が複数の妻を持って、彼女の家族を養うことが許されます。しかし、近年ではこういった夫婦は少ないようです。

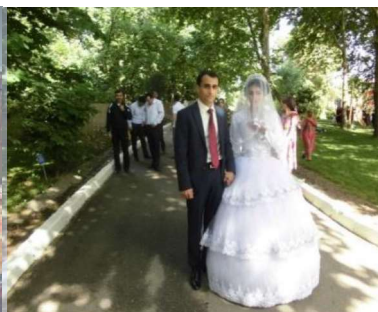
#### \*国や宗教は変わっても

日本とは多くの面で違うタジキスタンで生活して感じたこと。それは「国や宗教、文化や歴史など、多くの面で違っていても、人間としての価値観は同じだな」ってことです。家族や友人に対する愛情、仕事や学問に対する夢、何事も自分で努力しなければ人生を楽しめないということ、そして誰もが国の繁栄と世界平和を願い、世界中の人々が健康で幸せに暮らせるようになって欲しいと願うこと。

中央アジアの小国タジキスタン。まだまだ日本での周知度は極めて低いけれど、これから、カザフスタンやウズベキスタンのように、日本との政治、経済そして人的な交流がもっともっと進んで欲しいと願います。



おもてなしの食事



結婚式後の写真撮影



ナウルズ(新年)のお祝い